

農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

1. 農村工学基礎技術研修（第1回）を開催しました。

6月8日（月）から8月5日（水）にかけて、全国の地方農政局等から29名の研修生を迎え「令和8年度農村工学基礎技術研修（第1回）」を開催しました。

本研修は地方農政局等に採用された入省2～5年目程度の職員を対象として、農村工学に関する基礎学力、基礎技術、基礎知識を習得させることで、農業農村整備事業に携わる若手職員としての資質向上を図ることを目的として実施しています。

研修期間は全体で約8週間あり、前半の約3週間は数学、水理学、土質力学、構造力学、鉄筋コンクリートの設計等に関する座学をオンライン形式で実施しました。後半の約5週間はつくば市内の農村工学研究所等において、コンクリート試験、水理実験、土質試験などの各種実習に加え、擁壁・開水路・管水路の設計演習や施設見学等の現地研修を実施しました。

参加した研修生からは「業務報告書や配筋図等を確認する際のポイントとなる点を学ぶことができた。」「基礎科目と日常業務との関連性を見出すことができた。」などといった感想が寄せられました。

技術研修室では今後も本研修の内容および実施方法の改善を検討しながら、若手農業土木技術者の資質向上に資する研修の機会を提供していくこととしています。



水理実験実習（開水路（跳水）の測定）



コンクリート試験実習（圧縮強度試験）



水理実験実習（局所損失水頭の測定）



土質実験実習（三軸圧縮試験）

2. 農村工学専門技術研修（施設保安全管理）を開催しました。

7月28日（火）～8月7日（金）の期間、参加人数18名（国：4名、県：10名、土地連：4名）で実施しました。

研修内容は、コンクリート構造物の保安全管理、ポンプ機能診断、パイプラインの補修・補強工法、ため池の機能診断などの座学に加え、補修材研究の施設見学やコンクリート構造物の機能診断にかかる実習などを行いました。

本研修は1週目をオンライン形式、2週目を集合形式のハイブリッド形式として実施しました。

研修生からの意見として、「コンクリート構造の保全について知識が全くない自分でも、説明が分かりやすかったです」、「パイプラインの更生工法は、名前は聞いたことがあるがイメージが付きにくいものが多かったですが、本講義で動画を見て、とても理解が進みました(特に反転工法)」、「補修工法の実演では、現地での施工の留意点がとても分かりやすかった」などがありました。



ドローン紹介・試験飛行



現場付着強度試験



摩耗計測（型取りケージ）



管外圧試験（硬質ポリ塩化ビニル管）

3. 農村工学専門技術研修（経済Ⅰ）を開催しました。

8月31日（月）～9月4日（金）の期間、参加人数161名（国：28名、県：61名、土地連：72名）で実施しました。

本研修はオンライン形式で実施し、費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等を行いました。

効果算定業務等を担当することとなる都道府県・土地連職員の受講希望者が多く、募集定員を上回る応募が続いていたため、昨年度の70名から200名と大幅に定員を増やし、応募者全員が受けられるよう改善を行いました。

研修生からの意見として、「総費用の算定方法について、基本的な事項から丁寧に説明いただいたほか、総費用算定様式に基づく具体的な計算例を用いて解説していただいたため、計算方法を理解しやすかった」、「国の事業ヒアリングにおいて事前評価資料の提出を求められるものの、その活用方法を十分に理解できていなかったため、政策評価の仕組みや流れを知ることができ、有益であった」などがありました。

4. 研修修了生の累計が25,000名を超えました。

1956(昭和31)年に農林省農地局によって始められ、その後、農業土木試験場（現在の農研機構農村工学研究部門）に継承された本技術研修について、令和8年度経済Ⅰ研修の修了をもって、研修修了生の累計が25,000名を超えました。ご多忙の中、これまで研修を支えていただいた講師の皆様、研修生を送り出していただいた所属機関の皆様、そして、研修に真摯に取り組まれた研修生の皆様に感謝申し上げます。今後とも、研修修了生の皆様の益々のご活躍を祈念します。



※図はイメージです